祭りが盛り上げる地域 浅草の三社祭、アプリで周遊促す

データで読む地域再生 関東・山梨

#データで読む地域再生 #インバウンド #新型コロナ

2022/5/20 21:00 [有料会員限定]

関東8都県でも新型コロナウイルスの感染状況をにらみながら、祭りの再開を模索する動きが出始めている。人の密集による感染拡大を防ぎつつ、宿泊や飲食、買い物などを通じていかに地域でお金を使ってもらうか。行政や観光などの関係者は各地で知恵を絞る。

富士山の夏山シーズンの終わりを告げる「吉田の火祭り」（山梨県富士吉田市）

8都県の祭りの中で、地域経済へのインパクトを示す「域内経済効果指数」が0.63と最大だったのは、富士山麓の山梨県富士吉田市の「吉田の火祭り」。毎年8月26～27日に開かれ、北口本宮冨士浅間神社に続く本町通りを高さ3メートルの大たいまつ約90本が照らす。2019年にはのべ19万5000人が訪れた。

データで読む地域再生

新型コロナで20年は神社内の神事のみとなり、21年も規模を大幅に縮小した。今年は未定だが、市や宿泊施設の関係者は3年ぶりの通常開催を心待ちにしている。

開催が決まれば市などは経済効果を高めるため期間中の歩行者天国の時間延長を検討する。「観光客が町をそぞろ歩く時間を増やし、地域での消費を促したい」（産業観光部）と話す。市内に数軒だったゲストハウスも約70軒に増え、宿泊受け入れ能力も高まっている。

浅草神社（東京・台東）の三社祭は21～22日に開かれる予定で、みこしの担ぎ出しが3年ぶりに復活する。例年、200万人の観光客を集め、経済効果は年628億円と全国首位。域内経済効果指数でみても0.59と、8都県では2番目に大きかった。

浅草観光連盟のアプリ「365ASAKUSA」は、観光客を周遊させることで三社祭の経済効果の拡大につなげている

祭りに集まった観光客を周遊させて、経済効果に一役買っているのが浅草観光連盟のスマートフォンなど向けアプリ「365ASAKUSA」だ。三社祭をはじめとするイベント・行事の紹介、周辺の観光名所や飲食店の情報も多言語で案内できるようにした。同連盟の担当者は「浅草がインバウンド（訪日外国人）の聖地と呼ばれる一因となったのではないか」と話し、今年の集客に期待を込める。

今年7月に3年ぶりに開催される「湘南ひらつか七夕まつり」（神奈川県平塚市）

神奈川県平塚市の「湘南ひらつか七夕まつり」も7月8～10日、3年ぶりに開催される。十数メートルの大型飾りが名物。経済効果は年93億円で、8都県では三社祭に次いで2番目だ。コロナ前の19年は約155万人の人出があった。県外からの来場自粛を求めるため、市などは「今回は半減するのでは」とみるが「コロナで影響を受ける市内経済の活性化のきっかけにしたい」と話す。

「桐生八木節まつり」のメインイベントである八木節おどり（群馬県桐生市）

例年8月に開催される群馬県桐生市の「桐生八木節まつり」もコロナ前まで毎年、50万人超の観光客を集めてきた。20～21年は中止したが、今年は規模を縮小して3年ぶりに開く。ただ中心イベントの「八木節おどり」は開催を見送る。やぐらを囲んで大勢で踊るため「本来の魅力を保ちながら感染対策をとるのが難しい」（市の観光交流課）という。八木節の競演大会など、感染対策しやすいものは実施する。

土浦全国花火競技大会には例年約70万人が訪れる（茨城県土浦市）

土浦全国花火競技大会は、茨城県土浦市で毎年11月上旬に開催され、2万発の花火を打ち上げ、約70万人が訪れる。26日の実行委員会で方針が決まる予定で、3年ぶり開催に期待が高まる。

土浦市の安藤真理子市長は「花火文化が存続の危機にあるなか、全国の先駆けとなって業界を応援する」と意気込む。大会が中止されている間も、週末ごとに1400発の花火を打ち上げる「土浦花火代替イベント」を開催するなど、花火のイベントを絶やさない努力を続けている。

秩父夜祭の今年の開催は決まっていない（埼玉県秩父市）

埼玉県の「秩父夜祭」（秩父市）も、過去2年はコロナで主要行事の大半が中止され、今年の開催は未定だ。本来なら12月2～3日の2日間で30万人前後を動員する。秩父市は市内を訪れる観光客の滞在時間や消費を増やそうと、3月下旬に秩父地域地場産業振興センターの物産館を37年ぶりに刷新した。市の担当者は「コロナの状況を踏まえながら、新しい様式で観光客の受け入れ体制を整えたい」と話す。

千葉県館山市で秋に開催される安房国司祭も、多くのみこしや山車、お船が市街地を巡る。例年は2日間で10万人が訪れる房総地域最大の祭りの一つだ。同市は千葉県南部に位置し、都心からやや距離があるため、開催日の前後には宿泊する観光客も少なくない。今年の開催はまだ決まっていないが、市観光協会の担当者は「楽しみにする市民も多く、足元では問い合わせも増えている」と話す。（本田幸久）